

『割引』 作：ポチ子

『割引』 作：ポチ子

割引コーナーには、

活きがない野菜と、

しなしなになったキノコ、

真っ黒なバナナが置いてあった。

特に食べたいわけじゃなかったけど、

安いから、

ところどころ柔らかくなったニンジンを買って、

私は家に帰る。

なんとなく買ったそのニンジンは、

結局使い道がなくて、

数日冷蔵庫に置いた後、

ゴミ箱に捨てた。

元々ちよつとあれだったニンジンのは、

ふにゃふにゃでカピカピになっていた。

私を買うまでこのニンジンのは、

誰の手に取られることもなく、

ただ置かれるだけだった。

やっと買われたと思ったら、

何になるわけでもなく捨てられるし。

そんなニンジンの事を思ったら、

ちよつと可哀想な気がした。

でも、傷んだニンジンを食べるわけにもいかないし。

なんとなく罪悪感を感じて、

上にティッシュを重ねて捨てた。